

水爆実験で被ばくした 第五福竜丸を見学して

地球環境に学ぶサークル 小田原 一博

地球環境に学ぶサークルでは5月30日に江東区夢の島の第五福竜丸展示館を見学しました。第五福竜丸は70年前の1954年に太平洋でマグロ漁作業中に、米国の水爆実験の放射能を浴び被ばくしました。展示館には被ばくした第五福竜丸の実物と、水爆実験の被害、被爆者の病状、世界の核実験、等の解説が掲示されていました。改めて核兵器・放射能の恐ろしさを再認識しました。以下、展示館の説明等から概要を報告いたします。

1. 第五福竜丸の事件とは

第五福竜丸は静岡県焼津港のマグロ漁船です。1954年3月1日、マーシャル諸島ビキニ環礁で米国の水爆実験地から160kmも離れた海上で作業中に降ってきた死の灰(放射性降下物)を浴び、被ばくした乗組員23人のうち1名の久保山愛吉さんが半年後に死亡しました。米国から事前通知された危険水域外で作業していたにも拘わらず、死の灰が米国の想定以上に広がったとされています。

2. 水爆実験の規模

この水爆は広島で投下された原爆の1000倍の破壊力があり、爆発で砕けたサンゴ粉塵はキノコ雲に吸い上げられ、死の灰として広範に海と大気を汚染しました。被害は第五福竜丸だけではなく、日本各地からビキニ環礁で出漁していた船1000隻のうち150隻以上が被ばくしました。

3. 被ばくの報道

事件2週間後3月16日の読売新聞にスクープ記事が掲載され、帰還した各漁船の乗組員の健康診断や、船の洗浄、マグロ200トンの廃棄が行われました。

暫くの間マグロは放射能汚染が心配で売れず、マグロ価格は暴落しました。第五福竜丸以外の被ばくの詳細は、米国への配慮か日本政府から発表されていません。

4. 廃船と展示館の設立

第五福竜丸は洗浄され、被災から2年後に水産大の練習船として利用、1967年に廃船処分となり、当時ゴミ処分場の「夢の島」に放置されました。



これを知った市民から保存運動が起こり、1976年によりやく東京都立第五福竜丸展示館が開館しました。

5. 原水爆実験の状況

米国は1946年から58年までビキニ環礁で67回も実験実施しています。その後も各国で多数の核実験が行われ、米国1030回、旧ソ連715回、英国45回、フランス210回、中国45回、インド6回、パキスタン6回、北朝鮮1回。2007年6月現在の総計で2058回にもなります。

6. 核実験禁止条約

第五福竜丸事件は原水爆禁止運動の契機となりました。1996年に包括的核実験禁止条約(CTBT)が採択されました。

2023年2月現在、署名国は日本を含め186、批准国数は177。しかし米国、中国、イラン、イスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮等が未署名・未批准のため条約はいまだに未発効です。

参考資料

- ① 都立第五福竜丸展示館
HP <http://d5f.org/>
- ② 放射線科学 2008年2月第五福竜丸を振り返って
<https://www.qst.go.jp/uploaded/attachment/26921.pdf>